



大山恵みの里づくり計画の実現に向けて

地域プロデューサー就任！

5月1日、大山恵みの里づくり計画を推進するための業務を行う地域プロデューサーとして、^{しもおかまこと}下岡真さんが就任しました。

「大山恵みの里づくり計画」とは

この計画は、大山をシンボルとして、町内の自然や歴史を背景としたさまざまな資源の価値や魅力を引き出し、全町的な観光地づくりを目指すとともに、農林水産業を中心とする大山ブランドの育成を図ることで地域の産業・雇用・所得の活性化を目指す計画です。

「大山恵みの里公社（仮称）」の設立を

地域プロデューサーは特産品の発掘や開発、販売支援による大山ブランドの育成に併せて、人材育成や起業支援などを行う「大山恵みの里公社（仮称）」の設立とその運営・管理を行います。また、山陰道のインターチェンジ周辺に整備する予定の総合交流拠点（例えば道の駅のような施設）の管理・運営にもかかわってもらいます。

全国から応募のあつた69人の中から決定！

地域プロデューサーを新聞やインターネット広告で全国公募したところ、北は青森県から南は沖縄県までの全国各地から69人（うち鳥取県内28人）の応募がありました。年齢は30代から50代が主で、その内の7人が女性でした。

第1次審査は、履歴書や志望動機、職務経歴書に基づく書類審査を行い、候補者を6人に絞り込みました。

第2次審査では、町の三役に民間企業の役職員を加えた6人の選考委員が面接試験を行い、地域プロデューサーとしての能力の高さや将来性を総合的に勘案し、最終的に下岡さんを採用することに決めました。



就任式の後、町長から「これまでのやり方にとられず、客観的な立場から町を盛り上げてほしい」と激励を受ける下岡さん（左）

◆◆◆下岡さんにインタビュー◆◆◆



下岡 真 地域プロデューサー
(大山振興課)

Q. 今までの経歴を教えてください。

下岡 広島市出身です。地元私立大学卒業後、十数年間保険業界で営業を経験し、新設道の駅（山口）での青果・食料品マネージャー、地域振興公社（島根）での事務局長・役員を経て、こちらに参りました。

Q. 地域プロデューサーを志望された理由は何ですか？

下岡 田舎や地方での暮らしの志向性と、地域活性につながる仕事で地域に貢献したいという思いがありました。そこが合致していて、法人設立から関与できるといふ新規性に強く魅かれて応募しました。

Q. 大山町の印象と、今後の意気込みを教えてください。

下岡 鳥取県自体にも、今回初

めて参りましたが、雄大な大山の姿を間近に見ると畏敬の念を感じざるを得ません。自然あふれる地域資源に恵まれた町とのイメージを持っています。

山陰で平野部が広いのにも驚きました。米子・境港など街にも近く利便性もあって海・川・山と自然もある大山町は、私のようなイターン者に魅力ある町だと思います。住民の方のご理解やウエルカムの気持ち次第で定住促進が可能だと思います。

最近、本屋で目にとまった「急成長する町・衰退する町」といったような表題の本をめぐると大山町が自然淘汰される町にランクされていました。山陰側・鳥取県は人口や経済面で芳しくない雰囲気・イメージがありますが、都市部の食料を生産している「生」への根幹を支えている地域でもあります。それを自負していいと思っています。

顧客・訪問者・リピーターをつくる仕事を、町民の皆さんの参加・参画を得ながら進めていければと心から思っています。

町民の皆さんにはこれからのいろいろとお世話になります。よろしくお願いたします。